

# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国の昔ばなし7 妻の幽霊と二枚の小袖

岩国城下の材木町（岩国一丁目）に下対屋与惣右衛門という商人が住んでいました。与惣右衛門はあるとき妻を亡くしましたが、死後、夜な夜な妻の幽霊が家に現れ、語りかけてきたそうです。心を痛めた与惣右衛門は、近所の八郎という度胸のある若者を呼んで事情を説明し、家に泊めました。八郎は疑いながらも、与惣右衛門のそばでじっと座っていました。夜中すぎに、白装束を着た女が与惣右衛門の枕元に来て語りかけているのを見ました。これには八郎も驚きましたが、狐の仕業であろうと、次の夜は枕元に棒を置いて座っていました。前日と同様に怪しいものが来たのを見て、八郎は立ち上がって置いていた棒で叩こうとしたのですが、すり抜けて当たりませんでした。庭まで追いかけてみましたが、そこで消えるようになってしまいました。

八郎は、これは疑う余地もなく幽霊だと思い、次の夜も与惣右衛門の家に  
行きました。すると、また幽霊が現れ、八郎に向かって「私は与惣右衛門の妻の幽霊です。このように現れるのは、決して夫に害を与えようということではありません。私が亡くなる時に心残りだったことがあり、それを伝えるためなのです」と言いました。八郎が「幽霊なのですか？ 狐の仕業と思っていました。お望みとは何ですか？」と問うと、その幽霊は嬉しそうに「与惣右衛門に言おうと思ったのですが、恥ずかしくて時間だけが過ぎていたところですよ。よく尋ねて下さいました。私が生前に作った小袖（着物）が二枚あります。一枚を私の妹に、もう一枚を浄土院に贈って、私の冥福を祈ってください」と言ったかと思うと、姿を消したのです。八郎は夜が明けるのを待って、詳しく報告したところ、与惣右衛門は幽霊の望みどおりに処理し、その夜からは幽霊が出ることはありませんでした。

※浄土院…江戸時代、横山にあった寺

### 今回の史料

『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』

江戸時代に岩国藩主広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43(1910)年。

◀『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』挿絵より

### いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



## 岩国市 人口・世帯

人口 142,021 人【前月比 -142人】 男性 67,219 人 女性 74,802 人

世帯 66,740 世帯【前月比 -49世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年8月1日現在）

交通事故発生件数 7月分事故件数 41件(310件) 死者数 0人(6人) 傷者数 44人(369人)

※高速道路発生分を除く

※( )内は平成26年累計

### 広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎②31234

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎②95016 FAX②13337